

# 年頭のご挨拶

奥出雲町長 勝田 康則



新年あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えになられましたことと存じます。心からお慶びを申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症が日本全国に広がり、これまでの生活が一変する大変な事態となりました。このような中で、本町では、商工業者や学生等への補助金や給付金などを創設し、町内経済や町民生活を下支えする支援策を講じてまいりました。新年を迎えましたが、新型コロナウイルス感染症の収束はまだ見通せない状況です。

今年も地域の状況を見ながら、また、皆様のご意見などを頂戴しながら、引き続き、最大限の対策を実行してまいりたいと考えています。

さて、世界農業遺産等専門家会議の委員などに

より、国内承認に向けた現地調査が行われました。

1月下旬にプレゼンテーション発表による二次審査が行われ、承認が得られれば、FAO国連食糧農業機関へ申請及び現地調査が行われる予定です。今後は行政だけでなく、地域の活動組織や農業者、関係団体などの参画・連携が求められており、目標を共有し、次世代へとつなげる未来志向の取り組みを進めてまいります。

次に仁多米についてです。第22回米・食味分析鑑定コンクールが11月に静岡県で開催され、奥出雲仁多米株式会社の「おいしい仁多米をつくる会」が出品した「コシヒカリ」が、見事4年連続10回目の金賞を受賞しました。今回の受賞により、今年も「仁多米」が品質の高い良質米であることを国内外に発信できたと考えています。

なお、金賞を10回獲得すると、「ワールド・ライス・アワード・ゴールド10」に認定されることとなり、本年、秋に開催予定の同コンクールで、正式に認定される見通しです。今後も魅力ある地域資源を活かし、農産物のブランド化、観光客の誘客など、地域の活性化につなげてまいります。

最後に奥出雲町立小学校再編についてです。新型コロナウイルス感染症の影響で、校区別協議会の立ち上げが当初の予定より大幅に遅れていますが、教育委員会と町長部局が連携し、スピード感をもって取り組んでまいります。

本年も町民の皆様から要望の多い生活基盤整備、雇用対策、定住対策、子育て支援、医療・福祉などの充実に取り組みむことはもちろん、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら必要な対策を講じつつ、健全で持続可能な財政運営を図ってまいります。引き続き、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 第52回全国高等学校選抜ホッケー大会激励式

～大会に向けて抱負を語っていただきました～

支えて下さった方々に、感謝の気持ちをしっかりと伝えられるプレーを、いい結果を残したいです。



前からプレッシャーをかけ、ボールをカットし、得点に繋げる横高らしいプレーで日本一を目指します。

第52回全国高等学校選抜ホッケー大会に出場する横田高校男女ホッケー部の激励式が12月16日に横田高校で行われ、選手を代表して、それぞれの主将が出席しました。勝田町長から「練習の成果を十分に発揮し、頂点を目指して頑張ってください」と激励のあいさつがありました。

大会は、12月22日から27日にかけて岐阜県で開催され、各地区予選を勝ち抜いた全国の男女各24チームが出場し、熱戦が繰り広げられました。その結果、男子ホッケー部は準決勝で栃木県今市高校に1-0で惜敗し、決勝進出はなりません。また、女子ホッケー部は、1回戦で栃木県今市高校に1-0で敗退しました。

女子ホッケー部主将 千原明音選手

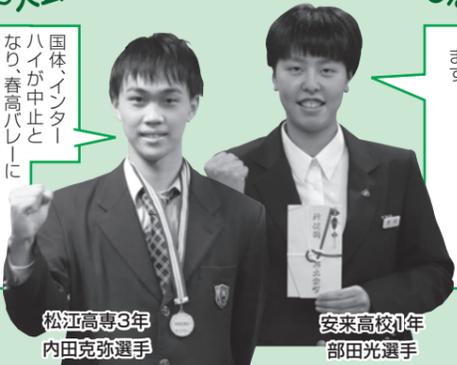
男子ホッケー部主将 嵐谷迅選手

## 春の高校バレー

## 第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会激励式

～大会に向けて抱負を語っていただきました～

国体、インターハイが中止となり、春高バレーに絶対出場したいと思っ練習に励みました。ベスト8を目指します。



一つ一つのプレーを大切に、得点が決まった時は全力で喜ぼう！とチームメイトと話し合っています。ベスト16を目指します。

第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会に出場する仁多中学校出身の内田克弥選手(松江高専)と部田光選手(安来高校)の激励式が、12月下旬に役場で行われました。勝田町長から「新型コロナウイルス感染症の影響により、満足のいく練習ができなかったかもしれませんが、気力と体力でぶつかってほしい」と激励の言葉が送られました。

大会は、1月5日から10日にかけて東京都で開催され、各県予選を勝ち抜いた全国の男女各52チームが出場しました。その結果、松江高専は埼玉県昌平高校に、安来高校は奈良県奈良文化高校に敗れ、初戦敗退となりました。

松江高専3年 内田克弥選手

安来高校1年 部田光選手

## 奥出雲町国際交流親善大使 仁多乃炎太鼓へ足袋を贈呈

12月16日、奥出雲町国際交流親善大使である長谷部俊昭さん(ハンガリー外務貿易省アジア方面政府代表)が、役場仁多庁舎を訪問され、仁多乃炎太鼓へ足袋を贈呈されました。贈呈式には、勝田町長をはじめ、仁多乃炎太鼓の内田会長ら関係者6名が参加しました。

長谷部さんは平成29年7月に奥出雲町国際交流親善大使に任命された際、歓迎行事で仁多乃炎太鼓の演奏を聞かれ、感銘を受けられました。これをきっかけに、平成29年12月には仁多乃炎太鼓をハンガリーへ招待し、ハンガリー公演が実現しています。

この度、コロナ禍によりさまざまなイベントが中止となり、仁多乃炎太鼓が演奏する機会が減少したことを知った長谷部さんは、仁多乃炎太鼓メンバーを励ましたいという思いから足袋を贈呈されました。

長谷部さんは、「仁多乃炎太鼓をハンガリーへ再度、招待したい。ハンガリーの皆さんに太鼓の魅力を知ってもらっただけでなく、町内の子どもたちが、世界で活躍する仁多乃炎太鼓に憧れを抱いて、後継者が増えたと嬉しい」と話されました。



勝田町長、内田会長(中央)、長谷部氏(右)



仁多乃炎太鼓へ贈呈された足袋

今後、長谷部さんには、文化交流のほか、町内の企業がハンガリーへ進出する際の支援などで協力していただくことが期待されています。